

# インフラ 国民会議「ちゅうごく」発足

## 官民相互のニーズ深掘り

### ベストプラクティス実現へ

インフラメンテナンズ国民会議の地方フォーラムとなる「インフラメンテナンズ国民会議「ちゅうごく」」の発足会議が28日、広島市中区の中国運輸局海技試験場であった。発足会議では、国民会議「ちゅうごく」の設立趣旨や三つの目標などを説明。フォーラムリーダーに就いた広島大学大学院工学研究科の藤井堅特任教授らによる講演も行われた。さまざまな課題を解決できるインフラメンテナンズのベストプラクティスの実現に向けた取り組み機運を醸成させた。



発足会議のもよう

開会にあたり、国民会議「ちゅうごく」で企画委員リーダーを務める復建調査設計㈱保全構造部の藤井友行技術次長と、中国地方整備局の吉田敏晴企画部長が挨拶。その中で、藤井次長は「国民会議「ちゅうごく」では、地域のインフラという資産を維持するため、行政だけでなく、産官学民での連携によって、確実かつ効率的なインフラメンテナンズの実現を図ることをめざしている。対象範囲は中国地方の5県で、対象分野は地方公共団体が管理するすべてのイン

フラ。今後、インフラメンテナンズに関する官民相互のニーズを効率的に深掘りしていきたいと考えている」と述べた。

発足会議では、中国地方整備局企画部の藤原博明事業調整官が28年11月に設立されたインフラメンテナンズ国民会議の概要を説明。国民マッチングや官民マッチングの事例などを紹介し、「地方公共団体が持つ中国地方ならではの課題に対して、中国地方ならではの技術をマッチングさせ、ベストプラクティスに昇華させた上で、全国に水平展開を図っていければ」と話した。

続いて、藤井次長が『「ちゅうごく」の設立趣旨や目標、組織体制などを説明。目標には▽インフラメンテナンズのベストプラクティスの水平展

開▽民間企業と連携した中国地方発の技術開発▽地域における市民等の連携の促進—の三つをあげ、これらの目標に対するそれぞれの活動内容及びメリットを紹介した。

このほか、藤井特任教授が「産官学民で取り組むインフラのメンテナンズ」を演題に講演。岡山県立岡山工業高等学校土木科の狩屋雅之教諭は、産官学で取り組む岡山工

業高校道路パトロール隊の活動を報告した。藤井特任教授は、厳しい予算制約が伴う今後のアセストマネジメントに関して「身の丈にあった維持管理が大事」と指摘。「全員でインフラに愛情を持つ

て取り組んでほしい」と訴えた。国民会議「ちゅうごく」の会員数は70者で、うち行政会員は38者（3月現在）。入会費や年会費は無料となっている。